



運動会シーズンがたけなわ、天気が気になる人も多いだろう。これからは、しばしば低気圧と高気圧がペアを組むように、上空の偏西風に流されて交互にやって来る。低気圧で天気は崩れ、高気圧では晴れる。雨が降り出す1、2日前に、まず西の空に巻雲=写真=が現われる。だんだん厚くなり、低くなって高積雲や高層雲となり、やがて乱層雲などを伴って雨が降り始める。低気圧の移動速度は50キロほど程度。天気がこのような経過をたどるのは、次のような立体的な構造を持つからだ。

2016.10.2



「気象コンパス」主宰

古川 武彦

温暖前線

低気圧から南西に寒冷前線が、南東に温暖前線が描かれている天気図をよく目にする。このうち、温暖前線はその線を境に「温暖前線面」と呼ばれる面が、地表から北東側に傾斜しながら、上空に延びている。その先端は高度1万メートルほどに達し、低気圧の中心から千キロほど離れているので、前線面の傾きは100分の1程度だ。低気圧の東側では暖かく湿った南西の空気が吹き込むが、軽いため、前方の空気の上を滑るように上昇し、前線面を形成する。先端辺りではマイナス50度程度だから、凝結する水蒸気はすべて微細な氷粒で、巻雲のほか巻積雲、巻層雲が生まれる。

関東地方で見れば、巻雲が西の空に現われ始めた時、低気圧の中心はまだ九州付近にあることになり、翌日の天気は大丈夫なはず。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)

2016.10.9.



「気象コンパス」主宰

古川 武彦

天気カレンダー

いて、年、月、旬、日の平年値を公開している。先の東京オリンピックでも利用されたはずだ。

「天気カレンダー」とは、民間が平年値などを利用して天気の現われ方を晴れや雨マークなどで分かりやすく示したもので、インターネットで調べると「天気カレンダー」や「過去の天気」などのタイトルで公開されている。それを見ると、水戸では10月9日～15日すべてが晴れマークだ。晴れといっても気象庁の「晴れ」の定義は「雲量が2～8」だから、かなり幅がある。

現在の予報技術では日単位の予測が可能なのは週間予報、週平均では1カ月予報、月平均では3カ月予報だ。一方、天気カレンダーは日ごとの天気や雨が予測されているが、あくまで過去の統計による平年値であることに注意。上記カレンダーのチェックを試みられては。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)

提供・鹿嶋市立大同小学校



今年の「体育の日」は10月10日。1964年東京オリンピックの開会式を記念したものだ。予報官の回顧によると、10月中旬ごろまでは天気がまだ変わりやすく、また現在のように数値予報の精度も高くなく冷や冷やものだったが、幸運にも晴れて予報的中したという。

秋は運動会シーズンでもあるが、日取りは予報に関係なく事前に決められる場合が多い。最も有力な手掛かりは過去30年間(1981～2010)の平均である「平年値」だ。気象庁では水戸などを対象に降水量、最高気温、雲量(全天を10としたときの雲の面積の占める割合)などにつ